様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	／内田　香奈子

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1．目標・計画

将来、学生が授業を構築、実践していく上で必要なものとして、1 授業内容に関する基礎知識、2 興味を持たせる授業内容を構築する創造性、3 子どもへの対応力だと考える。そこで、担当する予防教育に関する授業については、以下のように進めたい。①授業内容：これは、予防教育に関するプログラムの概説がその主な内容となる。そこで各プログラムを理論編と実践編に分け、理論編で基礎知識を、実践編で授業内容の解説を行うことで、多角的に授業を進めたい。②授業方法：授業方法については、一方的な講義形式のみならず、創造性を養うため、ディベートなども取り入れたい。また、本授業は子どもたちの自信やきもちなど、子どもたちの内面にアプローチするプログラムの解説がが多い。そこで、子どもへの対応力を培う意味でも、現場での子どもたちの声を多く紹介しながら、学生自身の内面と子どもたちの内面をリンクさせる形で授業を進めたい。また技術的な面から子どもへの対応力を培う意味で、授業内での子どもへの声かけの方法など、予防教育を通じて現場の先生方にご教示頂いた方法などを伝えたい。③成績評価：レポートによる評価に加え、授業における発言や、グループワーク時の姿勢など、多角的な点から評価を実施したい。

2．点検・評価

大学院生を対象に「予防教育科学」が後期に開講され、前期の授業と同様に年度目標に沿い、授業実践を展開した。①の授業内容については、理論面と実践面に分け、授業を展開した。このとき、前期での反省を生かし、理論編での理解を促進するために、実践編において授業の理論的背景の説明を多く取り入れることを心がけた。②の授業方法については、ディベート、グループワーク、現場の様子をまとめたビデオの視聴、子どもたちの様子の紹介などを行った。特にディベートでは、あえて自分とは異なる考え方の立場のグループに入らせて議論を行わせることで、物事を多角的に見る視点や、自分とは異なる視点を持つ子どもの立場に立つことが容易となるように心がけた。③の成績評価についても、前期と同様にレポート評価、授業時の発言、授業態度、毎時のコメントシートなどについて総合的に評価を行った。毎時のコメントシートには、実践編において授業を体験出来る点、ディベートを多く取り入れた点、グループワーク等の学生同士の交流を多く設けたことなどが評価された。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

昨年度と同様に、プログラム開発に携わるアルバイト学生に対しては、教材開発や実施へ積極的に参加を促し、将来の教育者を育成する好機を増やしたい。その際、こちらから教材作成方法の細部を指示するばかりではなく、どのようにすればより良い教材が子どもたちに提供できるのかを考えさせ、プログラム開発に携わっている意識を高めることで、積極性や創造性を育てることが出来ればと考えている。また、学部、大学院の授業を通じ、学生がどのようなニーズを持っているのかを探り、授業などに反映させたい。また、すべての支援を通じ、社会において必要となる礼儀作法等の指導を行いたい。

2．点検・評価

今年度は県内のみならず、県外の小学校において予防教育を実践した。その際、授業の補助や見学という形で学生を参加させた。参加した学生からは、他府県の小学校の様子を肌で感じることができ、勉強になったとの感想が得られた。また、授業はそのほとんどが公開授業であったため、はじめて会う子どもたちへの即時的な対応力を身につけることが出来たのではないかと考える。また、教材作成に従事している学生に対しても、自分達の作成した教材等に対し、子どもたちがどのように反応しているのかという情報を共有することで、彼らが現場に出た際の授業構築に役立ててもらえるよう意識した。なお、社会において必要となる礼儀作法についても指導を行った。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

今年度は昨年度と同様に、予防教育の構築にかかわる基礎研究や、実践成果について、国内外の学会において発表を行う予定である。国内の学会では予防教育に関するワークショップにおいて話題提供を行う予定である。また、予防教育の教育効果や構築にかかわる基礎研究などについて論文にまとめ、公表を試みたい。書籍については、分担執筆者として1章分を担当する書籍が年度末に公刊予定であるため、執筆を進めたい。

2．点検・評価

論文については、大学紀要と健康心理学会へ執筆した基礎研究論文がそれぞれ公刊された。また、次席以下の論文についても数本公刊された。また、書籍については、予防教育に関する章を担当した書籍も公刊予定である。学会発表については、教育心理学会、ヨーロッパ精神医学会において基礎研究の発表を行った。また、発達心理学会では当センターの研究補佐員が予防教育の実践成果を発表を行い、共同研究者として発表に関わった。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

昨年度は、本学の第2期中期目標の中核の1つである、概算要求事業に邁進し、現場における本学への評価向上の点から、本学の運営に貢献する方向を探った。その結果、県内外から多くの視察を頂き、本学の特色について多くの方にお伝えすることが出来た。また、教育についても一定の科学的効果をあげることに成功した。本年度は県内外小学校で予防教育を広域実施し、その教育・研究成果を流布することで、さらなる大学の評価向上に寄与できればと考えている。

2. 点検・評価

本年度は県内外小学校における予防教育の実施を通じ、大学の評価向上に努めた。徳島県の他、県外の複数校（静岡、京都、兵庫）において授業を担当した。特に県外はすべて公開授業であったため、多くの先生方や報道関係各位に本学での取り組みをお伝えすることが出来たと考える。また、独立行政法人教員研修センター主催の研修会「いじめの問題に関する指導者養成研修」（近畿ブロックと東海・北陸ブロック）や、大阪府での研修者をつとめ、予防教育を中心とした本学での取り組みをお伝えした。このような活動を通じ、本学への評価向上の点から、本学の運営に貢献する方向につとめた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

本年度は、県下複数の小学校の先生方と連携し、予防教育実施する予定である。県外の小学校においても、5月初旬に予防教育に関する公開授業を行い、多くの先生方にお越し頂く予定である。また、5月下旬には教員研修センター主催の研修について、実践に関する研修を担当させて頂く予定である。国際交流については、3月に開催予定の国際学会に参加・発表を行い、海外の研究者と交流する予定である。

2. 点検・評価

徳島県内では複数の小学校において予防教育の実施や実施補助に携わった。また、県外での公開授業や県外での研修会を通じ、多くの先生方と交流を深めた。いくつかの学校とは次年度の連携について話を進めている。また、県外から多くの先生方などに、県内での授業の様子や本学へ足をお運びいただき交流を深めた。国際交流については、ドイツでの国際学会、スイスでの研修会に参加し、交流を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）